

糖尿病について

ひかりが丘薬局

H 2 2 . 4 月号

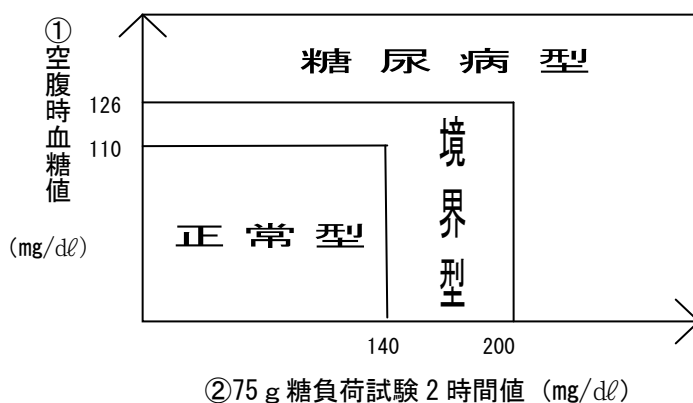
糖尿病とは、血液中の糖（血糖）が高い状態が長く続く病気です。血糖が高い状態であっても、すぐに自覚症状が出てこないことが多いので見過ごされることも多いのですが、放っておくと「三大合併症」といわれる神経障害（しびれ、麻痺 etc）、腎症（人工透析 etc）、網膜症（失明 etc）を引きおこすようになります。その為血糖をコントロールする治療が必要になります。

糖尿病が強く疑われる人や可能性を否定できない「予備軍」が合わせて2210万人と推計されることが厚生労働省の「2007年国民健康・栄養調査」で分かっています。糖尿病が疑われる人は、10年前の1997年と比べ約1.3倍に増え増加ペースが加速しています。

国民医療費が増加している中、糖尿病の医療費も比例するように増加しています。糖尿病は、「生活習慣病」といわれ、毎日の食生活、運動、ストレスなどが発病・治療に大きく関わっている為、暴飲・暴食を避け、適度な運動、ストレス解消を心掛けることが大切といえます。

糖尿病は、血液採取をし、血糖検査をすることで主に診断されます。血液検査は、大きく3つに分けられます。

- ①空腹時血糖値…一晩絶食した後で採血し測定した血糖値。
- ②75g糖負荷試験2時間値…75gのブドウ糖の溶液を摂取し、2時間後に採血し測定した血糖値。
- ③HbA1c（ヘモグロビンA1c）…過去1～2ヵ月間の平均血糖値を示す指標です。赤血球に存在し、酸素を運搬する役割を持つヘモグロビンの中で、ブドウ糖が結合しているものの割合を意味します。



☆正常値 4.3%～5.8% (6.5%以上で糖尿病の可能性がかなり高くなる)

血糖値が高くなるのは、インスリンという膵臓で作り出されるホルモンが関係しています。インスリンは細胞が血液の中からブドウ糖を取り込んでエネルギーとして利用するのを助ける働きをしています。インスリンの作用が不足すると、ブドウ糖を利用できなくなり、血液中のブドウ糖が多くなり、「血糖」が高くなります。インスリンの不足には、膵臓のインスリンを出す（インスリン分泌）能力が低下してしまうことと、インスリンに対する細胞の感受性が悪くなることの2つの原因があります。

糖尿病は大きく分けて2つの型に分けられます。

	1 型 糖 尿 病	2 型 糖 尿 病
原 因	自己免疫性・突発性	遺伝・生活習慣など
インスリン	絶対的不足	分泌されているが作用不足
発症（頻度）	急性（5%）	慢性（95%）
治 療	インスリンが必須	食事・運動療法で不十分なら薬がインスリン

*日本人の大半の人は2型糖尿病といわれています。

次回号は、糖尿病用薬についてです。